

地域おこし協力隊の そっちゃん! 高千穂

初体験 夜神楽フルバージョンに感動

【上永の内公民館夜神楽@民家開催 (令和5年11月25日)】

私の住む岩戸・上永の内公民館は、コロナ禍の中断で復活が危ぶまれた夜神楽を4年ぶりに今までどおり民家で開催しました。

当番の小組合に所属する私は、初めて準備から終了まで、そして、担当の受付をしながら33番全ての神楽に触れることができました。

まず、当番となる2つの小組合員による開催決議がされ、神楽宿候補のお宅に使用依頼に伺い、開催が決まります。その後、会場設営の資材や直会の食材の手配打ち合わせが行われ、準備が着々と進みます。

開催前日に、神楽保存会が中心となって神楽宿で神庭が作られます。当日の舞い手は、地元保存会、他地区からの応援、神楽デビュー奉仕者、子ども奉仕者です。当家に伝わる面様も道行き神楽で使用していただき感動しました。



安全に安心して夜神楽が楽しめるように臨時駐車場の設営、暗い夜道を照らす照明器具・仮設トイレなどの設置に加え、仮設の炊事場が作られます。

そして、かっぱ焼耐用の竹の準備も。公民館員のみなさんから、お米・餅・野菜などの食材を提供いただき、代々引き継ぐ献立表に従い、直会料理ができていきます。

当日は、地元の方はもとより、遠くは関東など全国各地から夜神楽を楽しみにしていた多くの方々が来場され、盛り上がりました。



このようにして、いままで町内各地で受け継がれて来た「高千穂の夜神楽」も、集落の人口減少・高齢化が進む中、民家から公民館等での開催に、夜神楽から日神楽開催に、形を変えながら守られています。それも対応できない地区は取りやめざるを得ない状況に至っているものと思います。

今回、上永の内公民館は、関係者のご協力、地域のみなさんの熱い想い、ヒト、モノ、カネの構成要素がうまく機能して開催できたものと思います。今後も町内各地区でこの構成要素のどれも欠けることなく継承されていくことを願います。



佐藤 高功 Sato Takahiko

高千穂町岩戸出身。
令和元年9月に着任。
ミッションは「移住相談、移住交流に関する業務、空き家の調査や管理に関する業務」。
NPO法人「一滴の会」に出身。
趣味は旅行と映画鑑賞。

—— NPO法人一滴の会の連絡先 ——
☎ 0982-83-0111 ✉ office@itteki.org

ふるさとの自然と文化に親しむ 神楽をモチーフにしたストラップの贈呈

12月21日、田原小学校で神楽をモチーフにした手作りのストラップの贈呈式が行われました。このストラップは、県職員で木育サポーターの小川孝洋さん(宮崎市)が制作。小川さんは、昨年度も町内の全小学生に配布を行っており、今回は一年生用として90個が送られました。代表して戸敷教育長から手渡された迫田日世里さんは「うれしい。どこにつけるかお母さんと相談する」と喜んでいました。



姉妹都市青少年交流事業 南城市の子どもたちと交流

12月26日、沖縄県南城市の小学生8人と職員3人が、2泊3日の日程で本町を訪れました。この日は、高千穂峡でボートに乗船し町役場に表敬訪問。町長が「数日前は雪が降ったが今日はあたたかいほう」と話すと、寒そうにする子どもたちは驚いていました。子どもたちは、一日目は町内の家庭で民泊をし、翌日は、あまてらす鉄道や彫り物体験を行うなどして本町の子どもたちと交流を深めました。



前回の成績(町村の部11位)以上の走りを 県市町村対抗駅伝競走大会結団式

12月8日、第14回宮崎県市町村対抗駅伝競走大会(1月8日宮崎市で開催)に出場する選手団の結団式が行われました。選手を代表し、キャプテンの甲斐潔さんが「本番では、前回の走りができるように、選手一丸となったたすきをつないでいきます」と誓いのことばを述べました。 ※結果は、町村の部17チームにおいて、2時間22分08秒の記録で第10位と健闘しました。



政治や選挙に関心を 第18回わけもんの主張西臼杵予選会

12月16日、町自然休養村管理センターで、宮崎県市町村選挙管理委員会連合会西臼杵支会甲斐通久支会長主催の「わけもんの主張が開催され、西臼杵郡3町からそれぞれ代表2名が、日頃考える政治や選挙についての思いを発表しました。本町から、冠地翔馬さん(町職員)と佐藤末空さん(町会計年度職員)が発表。惜しくも最優秀賞は逃しましたが、堂々とした意見を述べました。

